

ひまわり

2026年5月1日

第502号

制度が変わる今、子どもに必要な支援を見つめて

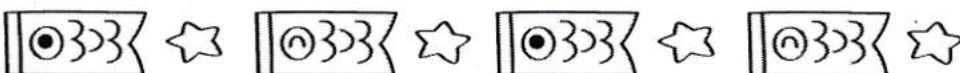
新しい年度が始まり、子どもたちの成長をまた皆さんと一緒に見守っていただくことを嬉しく思います。子育てや発達についての不安や迷いは、どのご家庭にもあるものです。「どんな支援が合っているのか」「どこに相談すればいいのか」と悩まれる方も少なくありません。

こうした状況を受け、国（こども家庭庁）は、児童発達支援センターを「地域で子どもと家族を支える中核的な機関」として位置づけ、全国の市町村や圏域でセンター機能を整えていく方針を示しています。センターには、専門的な発達支援、家族支援、保育所や地域の事業所への助言など、地域全体の支援を高める役割が求められています。

岐阜県でもこの方針を受け、圏域ごとにセンター整備が進められています。その中で、多治見市と大垣市は県内でも先がけてセンター化が行われました。当センターもその一つとして、今後は他の圏域がセンターを整備する際の助言役も担っていく予定です。

制度やサービスが変わっていく時代だからこそ、私たちは流行や目新しさに流されず、子どもの姿を丁寧に見つめ、ご家族と一緒に考える支援を大切にしていきたいです。新しい年度も、地域の拠点として、安心して相談できる場所であり続けたいと思っています。そして、ここに集うすべての子どもたちとご家族が、少しずつでも「ここなら大丈夫」と感じられる一年になるよう、私たちが歩みを重ねていきたいと思っています。

宇野 亜弓



大垣市立ひまわり学園

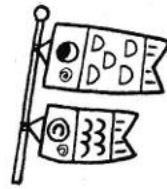
発行人 宇野 亜弓

職員紹介

今いちばん行きたい所は?
 アレカガフラワーパーク
 いろんな宿根草が見たい
 みなさんへのメッセージ
 今年も、こども達が楽しいことに
 出会い、いろんな経験を通して
 成長していけるお手伝い
 します。

うの あやみ
 宇野 亜弓

園長



係長

今いちばん行きたい所は?
 北海道
 みなさんへのメッセージ
 楽しく通って下さいね。
 待っています。

いとう ねおと
 伊藤 玄将

児童発達支援管理責任者

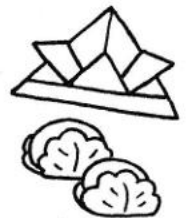
今いちばん行きたい所は?
 水族館や動物園
 癒しを求めて...
 みなさんへのメッセージ
 みんなのパワーに負けな
 ように、頑張ります!!

やすだ かよ
 安田 佳代

今いちばん行きたい所は?
 自然豊かな所、動物と触れ合える所
 みなさんへのメッセージ
 皆さん思いっきり遊んで“楽しい”“できた”
 “頑張った”をたくさん共有したいですな
 よろしくお願いします!!

みつ いかり
 光井 友梨

言語聴覚士

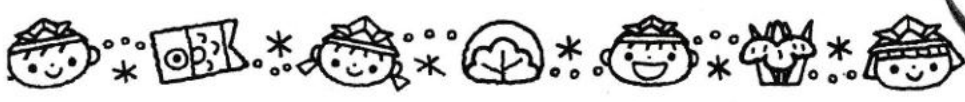


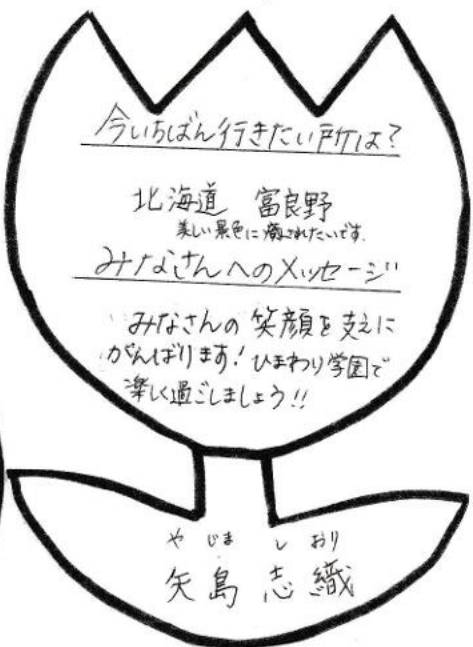
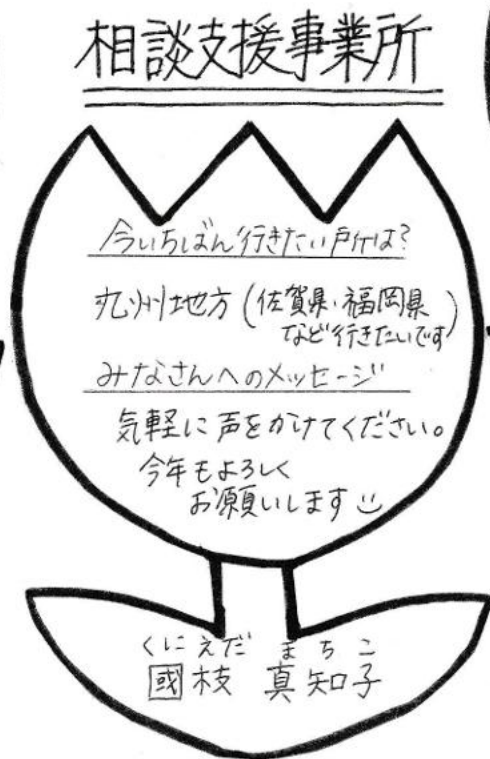
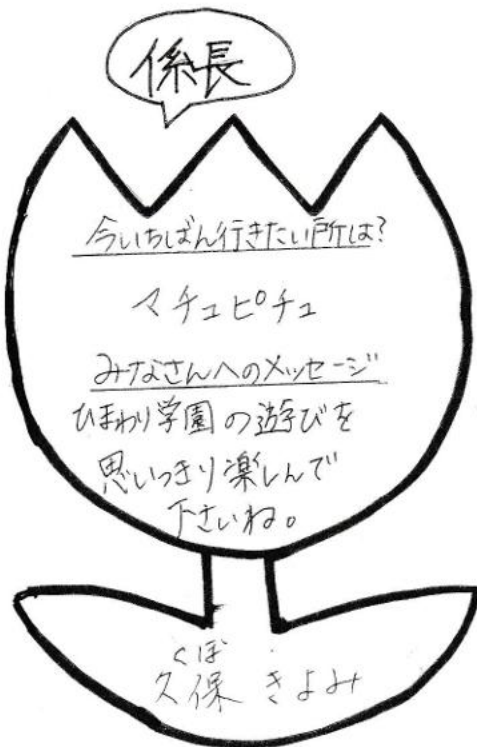
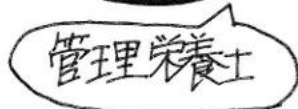
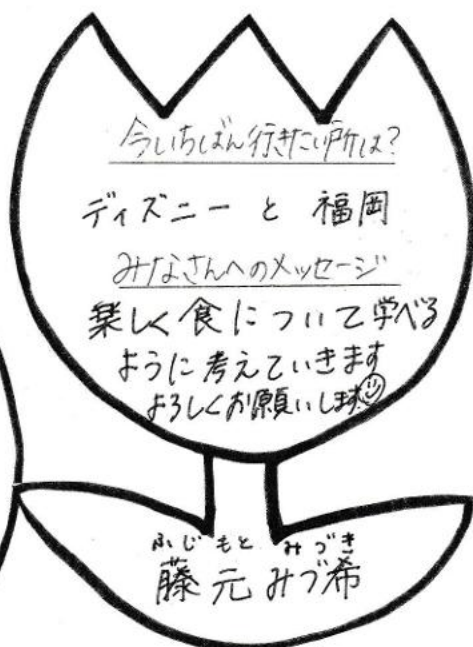
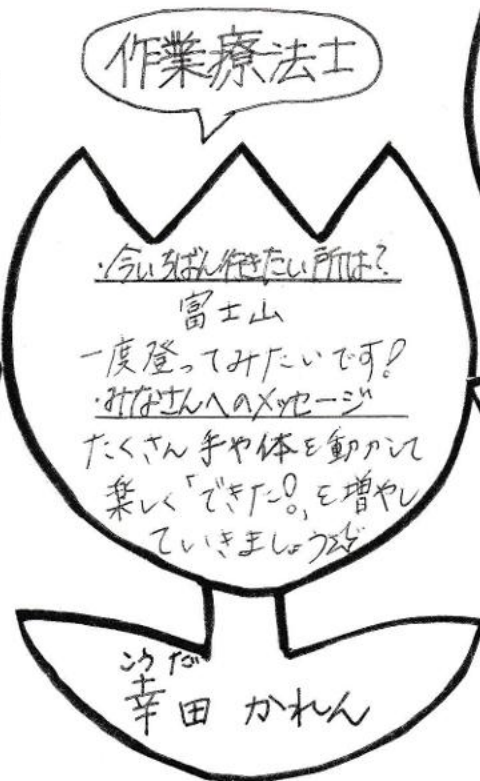
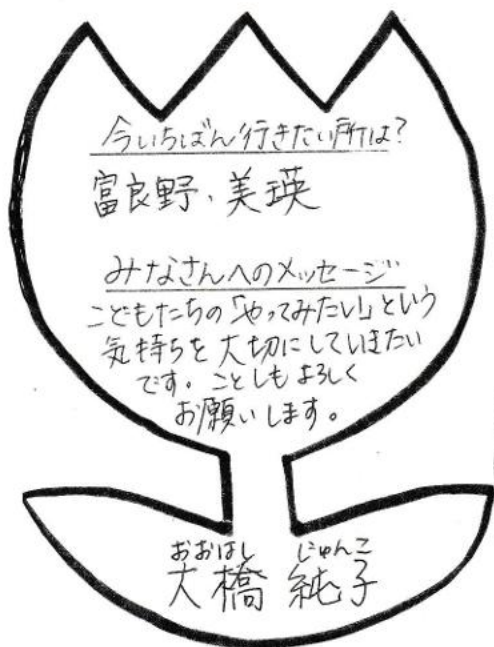
今いちばん行きたい所は?
 ぎんざん かんせん
 銀山温泉 (山形県)
 みなさんへのメッセージ
 こしは、いろんなほいくえや
 こどもん、おうちえんにいきます。
 よろおねがい
 します!!

あんどう のりこ
 安藤 典子



訪問支援員





今いちばん行きたい所は?
 7011の
 ハリポッターアトラクション

みなさんへのメッセージ
 ひまわりに来て下さるみなさんと
 たんぽぽさんで、えがきあそびしたい
 おぼせよう、がんばります😊

みなり まほ
 富成 希帆



たんぽぽ組

今いちばん行きたい所は?
 ディズニーランドとシー

みなさんへのメッセージ
 今年も笑顔で楽しく遊び
 ましょう! よろしくお願
 いします!!

あさの ひとみ
 浅野 瞳

今いちばん行きたい所は?
 東京、長野、福岡、石川
 会いたい、食べたい!!!

みなさんへのメッセージ
 お子さんや家族の皆さんと
 たんぽぽの笑顔で
 おどきたいです😊

いしぐら かな
 石倉 佳奈



今いちばん行きたい所は?
 ユニバ(USJ)
 テキサスニーリゾート

みなさんへのメッセージ
 たくさんあそびましょ?
 よろしく
 お願います😊

たけ みるみ
 辰己 実奈美



今いちばん行きたい所は?
 ライオンとジブリパーク

みなさんへのメッセージ
 みなさんと一緒に楽しく体を動かして
 遊びたいと思います。1年間
 よろしくお願います

ひらお えみ
 平尾 恵実

今いちばん行きたい所は?
 ハワイ、アメリカ(ドジャースの試合
 で山本選手を見たい)

みなさんへのメッセージ
 たくさん体を動かしてたくさん
 てあそびましょ。1年
 よろしくお願
 います!

いとう ゆうこ
 伊藤 祐子



今いちばん行きたい所は?
 スロー & ペルー
みなさんへのメッセージ
 今年も1年間
 ようにお願ひします。



すみれ組

今いちばん行きたい所は?
 宮古島 博多

みなさんへのメッセージ
 今年も元氣いっぱい 楽しく
 遊びたいと思います!!
 ようにお願ひします。

やくぞん なみえ
 後田 奈美恵

さばは りん
 傍島 梨絵

今いちばん行きたい所は?
 ディズニーランド
 香川県 (さぬきうどんを食べたい!)

みなさんへのメッセージ
 色々な遊びをみなさんと楽し
 むたいと思います。
 ようにお願ひします!



今いちばん行きたい所は?
 ♫ ハワイ スポット ♫
 お勧めの食べ物教えてください!!

みなさんへのメッセージ
 ♪ みなさんと一緒に ♪
 楽しく遊ばせよう。
 ようにお願ひします。

たけうち ちんこ
 竹内 菜々子

今いちばん行きたい所は?
 草津温泉

みなさんへのメッセージ
 今年度は、みんなと楽しく元氣に
 療育を聞か、ていけるように
 頑張ります!

5月から新しく
 いた、おのり
 市田先生と小川先生が
 入ります?
 ようにお願ひします!

あたち
 足立 あかね



ひまわり学園の概要

ひまわり学園は、お子さんとご家族を支える地域の中核的な施設です。当園は昨年、児童発達支援センターへと移行し、四つの役割を果たす体制になりました。①お子さんの発達支援・家族支援 ②発達に関する相談の”入口“になること ③保育園などでの支援や環境づくりのサポート ④地域の事業所（児童発達・放課後等デイ）との連携。こうした役割を果たすために、当園では「児童発達支援」「保育所等訪問支援」「相談支援事業所」の3つの事業を展開しています。続いて、それぞれの事業をご紹介します。

児童発達支援

ひまわり学園での療育は親子療育を基本としています。二歳児までのグループは保護者の方も療育に参加をし、お子さんに対する声の掛け方や遊びの展開の仕方などを一緒に体験していただきます。三歳児以上のグループでは、保護者の方は見守り室から療育の様子を視聴していただいています。直接お子さんと関わることはありませんが、友達とどのように関わっているのか、療育者の指示に対してどのように行動に移すことができるかなど、集団生活での様子をイメージしながら見ていただくことができます。

ひまわり学園を利用している全ての子ども達に対して「個別支援計画」を立てています。グループで療育を行っていますが、その中でも、一人ひとりの目標に合わせて課題設定をしたり支援をしたりしています。また、保育園等に就園をしている子に対しては、年に一回ではありますが、それぞれの園に担当の療育者が訪問を

し、園での様子を見た上で担任の先生と支援方法について共通理解を図るようにしています。

保育所等訪問支援

保育所等訪問支援は、お子さんが通っている保育園などにひまわり学園の職員が月に二回訪問し、集団生活の場面で実際に具体的な支援を行ないます。保護者の方からの依頼を受け、療育の様子や担当の療育者の意見、保育園等の受け入れ状況等から対象となる子を決定しています。療育では、多くても七、八人程度の集団であるため、それ以上の大集団になると、お子さんにとっての困り感が変わってくることもあります。園の活動の中に職員が介入し、直接的な支援をしたり間接的に園の先生へ支援をしたりします。その様子を療育の担当者にも書面や口頭で引き継ぎをし、療育の中でも活かしていけるようにしています。

相談支援

学園には、センターが行う「発達相談」と、相談支援事業所が行う「計画相談」があり、役割が異なります。発達相談は、利用児だけでなく、地域の家庭からの相談にも応じています。これらは、発達に関する不安に寄り添い、必要な助言や支援につなぐ、日常的な相談です。保健センターや保育園などからの紹介で来園される方も多くいます。

一方、相談支援事業所が行なうのは、「計画相談」といって、サービス利用のための「サービス利用計画書案」を作成する相談です。相談支援事業所と契約をして行います。計画相談は、相談支援専門員が「サ

「サービス等利用計画案」を作成すると、受給者証の発行に繋がります。その後は定期的に利用している事業所や保護者の方にサービスの利用状況や日常生活の状況などを確認します。それを「モニタリング」と言います。また、児童発達支援を行なっている所は、ひまわり学園以外にも多数あり、それぞれに特色は様々です。「モニタリング」を通して、お子さんの困り感や保護者の方のニーズをお聞きした上で、必要なサービスについて情報提供をしてくれます。

それぞれ三つの機能は役割が違いますが、繋がりを持って業務にあたっています。相談支援事業所で新規に契約をした際、どういう子であるのか、事前に担当者会議を開催して対象児の情報を教えていただきます。この情報があることで、グループ編成の際に、発達段階や歳児を把握した上で、その子に適切な療育を提供することができます。また、療育を開始してからも半年の一回の「モニタリング」は、保護者の方だけでなく療育の担当者とも行ないます。その際、できるようになった所や頑張っている姿などを具体的な遊びの場面のエピソードとして伝え、具体的な次の目標を一緒に考えています。

保育所等訪問支援に関しても、療育を通してどのような支援が必要かを見極め、「療育」として支援を行なうのか、保育園等の集団の場面に介入して行なうのかを考えていきます。集団の中で楽しく過ごすことができている場合は、療育を終了し、保育所等訪問支援に切り換えていく場面もあります。常に職員同士で連携を図り、新規で保育所等訪問支援を開始する対象児についても話し合いをしています。同じ施設内ですので、常にお子さんの様子については連携をしており、職員一同で把握をしながら療育を行なっています。気になることや困ったことがありましたら、いつて

もお話をしてくださいね。お子さんにとって、保護者の方にとって良いサービスを提供していきたいと思っておりますので、今年度も一年間よろしくお願ひします。

(文責 安田)

着脱について

着脱は『脱ぐことから』

着脱は、一歳になって歩行が安定してきた頃を目安に、お子さんの様子を見ながら少しずつ始めていけると良いでしょう。一歳前頃になると、大人が服を脱がせる時に、手を上げたり片足を上げたりする姿が見られるようになってきます。また、脱ぐことを面白がる時期でもあります。これらは、着替えに対する意欲の現われですので、自分で靴下やズボンを脱ごうとする姿が見られた時は、やりたい気持ちを受け止めて、できる所は自分で着脱できるようにし、長い靴下はある程度下ろして脱ぎやすくしてあげるなど、まだ難しい部分はさりげなく手伝いながら、子どもが自分で『できた』という達成感を味わえるようにしていくと良いでしょう。そういった姿を認めることで着脱へのやる気がより高まり、自立へと繋がっていきます。

また、着脱を練習する上で、脱ぎ着がしやすい服を選ぶことも大切です。子どもの体格や発達に合ったもので、ある程度余裕のあるものを選びましょう。具体的には、ズボンのウエストはゴムのもの、肌着は上下分かれたもので伸縮性のある生地が良いと思います。何枚も着こまないで済むこれからの季節は、着脱の自立を促しやすいタイミングです。毎日のことですから、焦らず、楽しみながらできた時はたくさん褒めて取り組んでいけると良いですね。



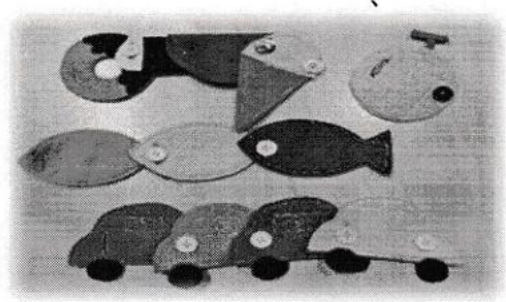
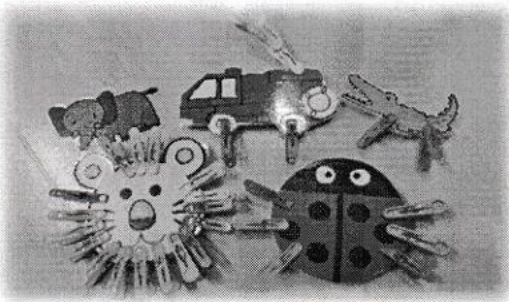
着脱を促す手先を使った遊び

☆ボタンかけ☆

シールを台紙からはがしたり、粘土をちぎったり丸めたりする遊び、積み木やレゴブロックをくっつけたり外したりする動き、ひも通しなどは、どれもボタンかけに必要な「つまむ・押す・引く」の力につながります。実際の服で練習する時は、ボタンが大きく穴が緩い服や、最初は下ボタン一つだけなど部分的に練習し、大人がゆっくり見本を見せながら進めると、子どもが理解しやすく、成功体験も増えていきます。

☆洗濯バサミ遊び☆

衣服につけたり外したりして遊んだり、イラストにつけたり繋げたりして遊びます。洗濯バサミを扱うためには、親指と人差し指でつまんで指先に力を一時的に入れることが必要になります。この指先でつまむ力は、パンツやズボンをはいて引っ張り上げる時に必要な力になります。



☆ゴム通し遊び☆

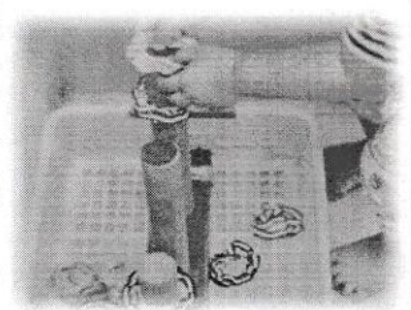
シユシユを棒に通す遊びです。シユシユの輪に親指を入れて広げる動作は、両手で同じ動きをして、靴下をはく時や、ズボン・パンツをはく時にウエストのゴムを広げる動作にも繋がります。

これらは、学園でも行なっている遊びです。ご家庭にある身近なものでできる遊びですので、着脱の要素を遊びに取り入れつつ、子どもの『自分で』を根気よく見守り、楽しみながら遊んでみてくださいね。

(文責 平尾)

食事について

「食べること」は、毎日行っていることなので「今日は何を作ろうかな？」と考えるのは大変ですよ。好き嫌い(偏食)、食べムラ、座ってられない、食べこぼし、食具の操作の仕方など、子どもによって悩みは違うかと思いますが、大切なことは「食べることが楽しい」と感じられるようになることだと思います。好き嫌いや食べむらのある子は、「どうして食べないか」「何が原因なのか」を考えることが大切です。好き嫌いが出てくるのは自己主張や自我の芽生えでもあり、成長のひとつとも言われます。「味が嫌だ」と思いますが、見ただけ、匂い、食感などの感覚の過敏さやこだわりがあって食べられないことも考えられます。食べ物を楽しんでいる時は、味覚だけでなく、香りを感ずる嗅覚、見た目を捉える視覚、食感を感じる触覚、さらに噛んだ時の音を聞く聴覚など様々な



感覚を総合的に働かせています。感覚に過敏さがあると美味しいと感じられずに不快さが生じてしまうこともあります。まずは少量ずつお皿に盛り一口でも食べられたら褒めて、「食べることは楽しい」と感じられる雰囲気を作りましょう。

次に食事の姿勢についてお話しします。食事中は座って食べていますか？椅子に座って食べる場合は足がぶらぶらしていませんか？姿勢が安定しないとしゃべることができません。食事において姿勢は大切な土台です。足がぶらぶらしないように台を置きふらつかないようにするのもポイントの一つです。また、体に合った椅子と机を使って、床に足をつけて背筋を伸ばして座れるようにしましょう。座位姿勢には体幹やバランス感覚が必要で、できないと背中が丸まったり肘を着いたりして上手く食事を摂れません。まずは、体幹やバランス感覚を養う遊びを通して、「姿勢を保つ力」を身につけていきましょう。

また、食具の操作はどうでしょうか。スプーン、フォーク、お箸を正しく持ってこぼさないように手や指を動かします。操作をすることが難しい理由としては、「指の力や腕の保持力が弱い」「手首の回転や固定が苦手であるなど手先の操作機能が未熟である」と考えられます。そのため、ままごとなどで「すくう」「うつしかえる」「かきまぜる」など手首の回旋を使った遊びをすると良いでしょう。お箸は個人差がありますが、一般的に三、四歳頃から使い始めるの時期です。食事中にお箸に興味を持った時がポイントで、焦らずにスプーンと併用してゆっくり練習をしていきましょう。本格的に使えるようになるのは五歳頃と言われています。様々な動作がスムーズに行なえるようになってくると、「自分で食べたい」と

いう意欲も出てくると思います。遊びを通して楽しみながら自然に手先の動きが身に付き、食具を操作することへの意欲に繋げていけると良いでしょう。

(文責 伊藤)

トイレの自立について

トイレで排泄するために必要な動作についてお伝えします。トイレは狭い空間の中で、「立つ」「座る」「方向転換する」など様々な動きが求められます。これらの動きがスムーズにできないとトイレに行くことが体が嫌になってしまいかもしれません。まずはトイレに行く前に動きを練習してみましょう。

始めに、椅子に座る、立ち上がる練習です。前を向いたまま座面に座り損ねた経験はありませんか。それは自分の体と座面との相互の位置がうまくマッチングしていないからです。座る時に少し後ろを振り返り座面の場所を確認しながら座りましょう。繰り返し練習することで、体と物との距離感が分かり、調整しながら座ることができてきます。そのためにも体の部位を自分で把握していることも大切です。例えば、お風呂で体を洗う時、「〇〇を洗うよ」と伝えながら洗うことで、腕や膝など体の部位を意識してもらいます。実際に自分で触ってみるのも良いでしょう。お風呂以外では、トンネル遊びで、トンネルにぶつからないように体をかがめて進むことで、空間認識機能や、ボディイメージを高めることができます。

次は、ズボンやパンツの上げ下げの練習です。まずは、ズボンやパンツを指先でつまむことはできますか。トイレでは、立ったまま上げ下げが

できることが求められます。立ったまま行なうことで、バランスを崩れやすいため、トイレ以外の場所での練習をしつかりしていきましよう。また体全体を使った粗大運動をたくさん取り入れて体幹を高めていくことも大切です。着脱は一人でできるけど、ズボンやパンツを全て脱いでからトイレに向かうお子さんを学園でも見かけます。ズボンやパンツを下に下ろしたままだと、足の稼働域が狭くなり動きづらさがあると思います。そんなお子さんは、立ったまま上げ下げができるように、日頃の着脱で練習をしていきましよう。

これらの動きがスムーズになり、排泄ができるようになったと一安心ですが、次のステップでの困り感に出会います。それは、トイレトペーパーを巻き取ったりちぎったりすることです。"どれだけ引っ張ればいいのか"、"ちぎり方が分からない"など分からないことが押し寄せてきます。"巻き取る"では、片方の手でペーパーを引っ張りながらも片方の手でまとめます。どの程度の長さをイラストで示したり、大人が「一回、二回、三回、おしまい」と声掛けをしたりしながら繰り返し行ない具体的な目安が知れると良いでしょう。そして、次は"ちぎる"です。まとめたペーパーを握りつつ、片方の手でペーパーホルダーの上部を押さえながらちぎります。これらの動きは左右の手が違う動きをするため、両手を協調させなければいけません。(協調動作)この動きは、トイレだけではなく、日常生活においてとても大切な動きです。食事の時に箸を持ち、片方の手でお茶碗を持つのもこの動きを必要とします。難しいお子さんには焦らず、大人が介助しながら繰り返し練習をしていきましよう。

排泄が終わったらお尻を拭きます。拭くことできれいになるのは、手洗いや机拭きなどと一緒ですね。日頃の生活と関連づけることで、お子さんがイメージしやすくなると良いと思います。最後に水を流します。水を流すレバーやボタンはお子さんの興味を引くものです。「最後にジャーするよ」と期待を込めて伝えてあげると最後までやりきるきっかけになるかもしれません。

以上の動きを獲得できたら、一連の動きがスムーズに行なえるように見守りましよう。まずはスモールステップでお子さんが興味を示した部分から取り組めると良いでしょう。また、昨日はできたのに今日はできなかったという日もあると思います。まずは挑戦した姿勢を褒めてあげましよう。そしてどこが難しかったのかを親子で確認しながら必要に応じて介助していきましよう。

トイレの自立は大人の方が焦りがちです。お子さんの興味や関心を探りながら、無理せず進めていけると良いですね。

(文責 棚橋)



作業療法士からの一言コラム

『手先の器用さは身体の土台から』

「お箸やスプーンがうまく使えない」「ボタンが難しい」など、手先の不器用さが気になる場面はありませんか？上手くなってほしいと思えば繰り返し練習していると、苦手意識が出てきて、自信を無くす場合もあります。手先の不器用さに戸惑いや心配を感じている親御さんも少なくないと思いますが、実は、器用さは手先だけの問題ではなく、その前段階として『身体の土台（姿勢・体幹・感覚・肩の安定性など）』と深く関係しています。一見、指先や動きだけの問題に思えますが、身体全体の発達や感覚統合など様々な要因が関わっています。肘や肩の安定性や固定性が低ければ、その不安定さを補うために余分に力が入ってしまい運動のぎこちなさを感じ、姿勢が崩れやすく身体がぐらついている状態では、指先を細かく動かすことは難しくなります。

では、身体の土台を育てるためにはどうしたら良いか。大切にしたいのが、『手で体重を支えるような遊び』や『持続的に力を入れるような遊び』、『身体をしっかり使った遊び』です。このような全身運動は、筋力・バランス・感覚統合を育てる土台（基礎）となり、手先の巧緻性や道具操作も伸びやすくなります。歩けるようになると、床に手を付く経験が減っていききます。また、成長の過程でハイハイをあまりせずにつかまり立ちや歩き始めたお子さんは、手で身体を支える経験が少ない可能性があります。お子さんの成長過程を振り返り、経験不足な動きを遊びを通して経験していくと良いでしょう。

身体の土台を育てるための遊びとして、特別な道具や難しい練習などは必要ありません。日常の中で楽しく取り入れられる遊びで十分です。

例えば、『ハイハイ（四つ這い）』や『くま歩き（高這い）』は、手や腕に体重をかける経験ができ、肩まわりの安定性や手首の固定につながります。始めは四つ這いから行ない、くま歩きや手押し車へとレベルアップしながら行なってみましょう。クッションや布団を使った上り下りの遊びは、バランス感覚や体幹を育てます。無理のない高さから始め、大人がそっと支えてあげると安心し自信を持って取り組むことができます。また、トンネルくぐりもおすすめです。段ボールや布で簡単に作ることで、トンネルの大きさに合わせ、くぐる・戻るの動きから姿勢をコントロールする力が育ちます。さらに、箱を押ししたりタオルを引っばったりする遊びは、腕や体幹の力をしっかり使うことができ、身体の安定性につながります。

こうした遊びを取り入れるときのポイントは、短い時間で楽しく遊ぶことです。長い時間頑張るよりも、一々三分でもできた！ことを実感して終わる経験を積み重ねることが大切です。また、『すごいね』だけではなく、『ここまでできたね』『手でしっかり支えられたね』など、具体的に認める声かけが、できたことを実感しやすく、子どもの自信や活動意欲につながります。

発達の進み方には個人差があり、成長の早い・遅いだけで不器用と決めつける必要はありません。ゆっくりなお子さんほど、小さなステップの積み重ねが大切になります。やらせるのではなく、一緒に楽しむことを意識して関わることで、安心して身体を使う経験が増えていきます。一人ひとりのペースや得意・苦手に寄り

添いながら、”今できていること“”これから育てていきたい力“を見つけていきましょう。

手先の器用さは、日々の身体づくりの積み重ねの中で少しずつ育っていきます。家庭での何気ない遊びの時間が、お子さんの発達を支える大切な一歩になります。ぜひ日々の生活の中で、無理のない範囲で取り入れてみてください。(文責 作業療法士 幸田)

サービス等利用計画と個別支援計画について

障害福祉サービス・障害児通所支援を利用する場合には、すべての利用者の人に「サービス等利用計画案(又は障害児利用計画案)」が必要で、これを基に受給者証の支給決定を行います。サービス等利用計画案は相談支援事業所の相談支援専門員が作成し、本人や家族の希望する生活や課題を整理して、どのようなサービスを組み合わせるか、サービスの種類や目標をまとめた「総合的な計画」です。支給決定後にサービス提供事業所と連絡調整等を行うとともに、「サービス等利用計画」を作成します。

サービス等利用計画(障害児支援利用計画)と個別支援計画はよく似ていますが、個別支援計画はサービス管理責任者(児童発達支援管理責任者)が作成します。サービス提供事業所の特色をいかにして、サービス等利用計画より具体的にどのような支援・指導・訓練等を行うかを一人ひとりに合わせた「具体的な計画」です。

サービス等利用計画と個別支援計画は、どちらも福祉サービスにおいて利用者の生活を支えるための計画であり、密接に関連しています。目的や内容の細かさが異なります。

食育コラム 『バランスの良い朝食を』

新生活が始まり一ヶ月が経ちました。朝ごはんは毎日食べていますか？時間がなかったり、食欲がわかかなかったりと抜いてしまいがちな朝食ですが、朝食をしっかり食べることは脳や体にとってはとても大切です。

朝食の役割

①脳のエネルギー源になる②体温の上昇③生活リズムを整える

朝食を毎日食べる人は朝食を食べない人に比べて、早寝早起きの人が多いことや、睡眠の質が良い人が多く、不眠傾向の人が少ないことが報告されています。幼児期は保護者が欠食することで、子どもの欠食の割合が高くなる傾向にあります。

また、朝食を毎日食べている人は多いですが、毎朝決まった時間に食べたり、主食・主菜・副菜が揃った朝食を食べたりする人は少ないのではないのでしょうか。毎日お子さんの支度や仕事の準備で大変だと思えますが、できるだけ同じ時間に朝食を食べることで、生活リズムが整います。バランスの良い朝食を食べることで、脳のエネルギー源になり集中力が向上し、体温を上昇させます。パンやご飯だけを食べているという人は、晩御飯の残りや温かいスープ、果物などを付け加えてプラス一品から始めると良いと思います。時間が合う時は、家族みんなで食べる「共食」を心がけてみてくださいね。



(文責 管理栄養士 藤元)

☆お願い☆

- ◎今後気温が高くなり、暑さ対策のため保護者の方も療育に来られる際に、水分を忘れずにお持ち下さい。
- ◎天気の良い日は、中庭で遊ぶことがありますので、帽子や水分を多めに持ってきてください。上記の準備が必要な場合は、事前に担当からお知らせします。
- ◎LINEでの欠席連絡は受け付けておりません。電話にてお願いします。

☆感染症について☆

ご本人やご家族が感染症にかかれた場合の通園について、以下のように対応をお願いします。療育を欠席される場合は可能な限り、前日までにご連絡いただきますようよろしくお願いいたします。

・療育をお休みしていただく場合

- ①通園園児本人が感染した場合
- ②同居家族が感染した場合
- ③通園児本人が通っている保育園、幼稚園等が休園や閉鎖となった場合

・お休みしている家族（兄弟）はお連れにならないでください

同居家族（兄弟）が通っている学校、保育園、幼稚園等が休園や休校、閉鎖になった場合（兄弟が感染していない場合でも）

・感染報告書について

通園児本人が感染した場合は感染報告書が必要になります。（用紙は学園にあります）就園先に報告書を提出される方はコピーで構いません。治癒後の出席時に各担当に提出してください。



◎5月4日(月)～5月6日(水)

祝日のため療育はお休みになります。

◎就学についての学習会(5歳児対象):

5月18日(月) 9:30～11:00

◎役員会:5月25日(月)・6月29日(月) 9:45～

◎親子で遊ぼうの会(未就園児対象):6月7日(日)

※詳細は担当よりお伝えします。

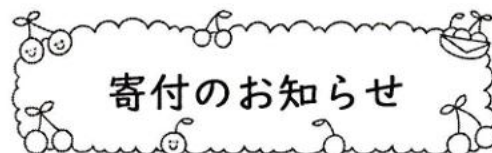
◎親子療育週間・避難訓練週間:6月22日(月)～6月26日(金)

※お子さんと一緒に療育に入って頂きますので動きやすい服装で登園を
お願いします。

また、療育ははだしで行ないますのでよろしくお願い致します。

◎健康診断(未就園児のみ):5月か6月に予定しております。

対象のお子さんには、後日詳細をお知らせします。



◎親の会より絵本7冊を頂きました。

ご寄付ありがとうございました!